9月 園長便り

2015年8月31日発行

セブンスデー・アドベンチスト石川教会付属　石川三育保育園

1953年1月、敗戦後8年目に次の「われら愛する」と題が付けられた歌が発表されたそうです。

1. われら愛す
胸せまる　あつきおもいに
この国を　われらを愛す
しらぬ火筑紫のうみべ
みすずかる信濃のやまべ
われら愛す　涙あふれて
この国の空の青さよ
この国の水の青さよ

2. われら歌う
かなしみの　ふかければこそ
この国の　とおき青春
詩ありき雲白かりき
愛ありきひと直かりき
われら歌う　おさなごのごと
この国のたかいロマンを
この国のひとのまことを

3. われら進む
かがやける　明日を信じて
たじろがず　われら進む
空にみつ平和の祈り
地にひびく自由の誓い
われら進む　かたくうでくみ
日本のきよき未来よ
かぐわしき夜明けの風よ

この歌は、歌詞、曲ともにひろく国民からの公募によってできた歌だそうです。当時、新聞社主催で、全国の主要都市でお披露目コンサートが開催されたり、NHKの電波で全国にテレビ・ラジオで放送されたり、一流の声楽家が吹き込んだレコードも発売されるなど、国民の各層から身近に感じられる歌となっていました。

また、この歌には、「新国民歌」という冠詞が添えられていました。歌詞の内容は、1番で自然に恵まれた日本の風土をたたえ、2番で戦争の悲しみを乗り越えて行く勇気と志をうたい、3番で「もう二度と戦争は起こしてはならない。自由と平和こそ宝だ。」との人々の固い決意が表すものとなっています。ですから、当時、この歌を聞き、口ずさむ者には、新しい国歌を歌う感動を覚えたに違いありません。

しかし、しだいにテレビやラジオで放送されなくなり、人々の記憶から忘れ去れてしまうのです。結局、この歌が、新しい国歌として採用されることはありませんでした。何故、そのようなことになったのか理由は分かりません。でも、「君が代」が国歌として歌い続けられていること自体が、その答えを物語っているのではないでしょうか。

現在この歌を知っている者は、どれくらいいるでしょうか。この便りを書いている私も、初めてこの歌の存在を知りました。もし、この歌が、代々教えられていたとするならば、忘れ去られることはなかったでしょう。これらのことは、歌それ自体が、その時々のメジャーな考え方によって、大切にされ、あるいは忘れ去られてしまう運命にあることを教えています。そして、歌には、歌を聞く者に、歌を口ずさむ者に、歌を作った者の思いを追体験させる不思議な力があることを憶えたいものです。

園長　糸数正義

聖書のみ言葉

『あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。喜んでいる人は、賛美の歌をうたいなさい。』ヤコブの手紙5:13